

司式 熊田雄二牧師
奏楽 門脇陽子姉妹

前 奏
開 会 招 詞

* 賛 美 歌 16:1 久しく待ちにし

久しく待ちにし主よ とく来たりて 御民のなわめを解き放ちたまえ
主よ 主よ 御民を救わせたまえや アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈禱書3 罪の告白②

主なる神よ、あなたの御前に背きの罪を告白します。わたしは聖なる戒めに従わず、失われた羊のように迷い出て、思いと言葉と行いにおいて罪を犯しました。しななければならないことをせず、してはならないことをして、自分の身に、あなたの怒りと裁きを招きました。憐れみに富んでおられる父よ、罪と過ちを悲しむわたしに憐れみを注いでください。神の独り子である救い主の名によって、わたしを赦してください。聖霊の恵みによって、わたしを新しく生まれ変わらせてください。願わくは今から後、み栄えのために生きる者とならせてください。主イエス・キリストの御名によって。

アーメン。(詩編32、イザヤ53、ローマ7)

罪の赦しの宣言

十 戒 祈禱書4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。(出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 16:2 あしたの星なる主よ

あしたの星なる主よ とく来たりて お暗きこの世に 御光をたまえ
主よ 主よ 御民を救わせたまえや アーメン

共同の祈禱 祈禱書8 降誕節第一主日 待降

やくそく ちゆうじつ かみ
約束に忠実な神さま、あなたの御子イエス・キリストの来臨によって、よげんしゃ やくそく
ださったことが成就しました。わたしたちに救いの日がおとずれたことを覚えて、感謝しつつ
御名をあがめます。主が再び来られるとき、栄光と力をもって御国の勝利を宣言し、わたしたちの
救いを完成して下さいますから、わたしたちは、希望を持って主の再臨を待ち望みます。(マ
タイ1、マタイ24)

献 金 (黒) 教会活動 (赤) 東部中会会議 70

今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン

聖書朗読 ルカによる福音書11章27～32節 (新約聖書129頁)

説教・祈祷 「真の幸い」 熊田雄二牧師

《 子どもプログラム 担当：森川真菜姉妹・熊田なみ子姉妹 》

聖餐式

* 賛美歌 16:3.4 ダビデのすえなる

3 ダビデのすえなる主よ とく来たりて 平和の花咲く国をたてたまえ

主よ 主よ 御民を救わせたまえや

4 力の君なる主よ とく来たりて 輝くみくらに とわにつきたまえ

主よ 主よ 御民を救わせたまえや アーメン

* 主の祈り 祈祷書1

てん われ ちち
天にまします我らの父よ

ねが み な
願わくは御名をあがめさせたまえ

みくに き みこころ てん ち
御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

われ にちよう かつて きょう あた
我らの日用の糧を 今日も与えたまえ

われ つみ おか もの われ ゆる われ つみ ゆる
我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ

われ こころ あ あく すく いだ
我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ

くに ちから さか かぎ なんじ
国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 68 あまつ御民も地にある者も

あまつ御民も地にある者も 父・子・御霊の

神をたたえよ 神をたたえよ アーメン

* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告 雨宮信長老 (司会・受付 次週：古澤兵庫長老)

本日 受付 1階：加藤良明執事 2階：森永美保執事 / 動画：森永翔馬兄弟 録音：門脇光生兄弟次
週 受付 1階：大日南隆夫執事 2階：那珂信之執事 / 動画：大日南悠兄弟 録音：森川莞太兄弟

※ 2グループ制により、長老も1階と2階に一名ずつ加わります

I 癒しの出来事をめぐる群衆の反応の一つ ある女の声

悪霊に取りつかれて口の利けない人が、イエス様に癒されました。今まで訳の分からない音を出していたのに、突然、訳の分かる声を出し始めたので、群衆は驚きました。しかし、その驚きには、喜ぶ者と共に喜ぶ嬉しさと、神への感謝と讃美が入っていたことでしょう。ところが、群衆の中にはユダヤ教律法主義のファリサイ派も混じっていて、また論争の火種になりました。

イエス様の癒しを見て、論争を聴いていた、ある女がいました。女は、イエス様の憐れみ深い癒しと論争の見事さに、心を打たれていました。彼女は「群衆の中から声高らかに」言いました。「なんと幸いなことでしょう、あなたを宿した胎、あなたが吸った乳房は。」「幸い」はmakariaで、山上の説教の始まりの「幸いなるかなmakarios心の貧しき者」の「幸いなるかな」に当たります。

これが「真の幸い」だったら気を付けないといけないことがあります。言うまでもなく「母マリア」を「聖母」とする信仰が起こることです。ルカ福音書はイエス様誕生の次第が詳しく「受胎告知」があります。マリアに受胎を告知したのは天使でした。

天使は、まずマリアに「おめでとう、恵まれた方」と言いました。カトリックが権威ある聖書としていたラテン語訳で「アヴェ・マリア」です。この「おめでとう」が「アヴェ」（ギリシャ語xaire）で、おめでとうとか幸いとか言う意味です。ある女が言ったことは天使が言ったことに似ているので、これも「聖母マリア」への信仰が起こりそうです。

この女が言ったことが「真の幸い」だったら気を付けないといけないことがもう一つあります。それは、偉大な人を産む女の栄光です。時代はローマ帝国の栄光が始まったばかりでした。初代皇帝アウグストゥスの人口調査命令で、イエス様は家畜小屋でお生まれになりました。

それはキリストの受難を表わす低い状態なのですが、「この人はダビデの子ではないだろうか」と群衆が騒ぎたっている状況では高い状態です。女が声高らかに言ったのは高い状態のキリストです。しかし、場面は、イエス様が十字架に架かるためエルサレムに行く途中でした。

群衆がユダヤ人の救世主を期待する中で、メシアとなる王子様を産んだ女は何と幸いなことでしょうと、女は、マリアの栄光が自分のものだったらという思いも込めて叫んだのでしょうか。「なんと幸いなことでしょう、あなたを宿した胎、あなたが吸った乳房は。」

イエス様は言われました。28節「むしろ、幸いなのは神の言葉を聞き、それを守る人である。」「神の言葉を聞き、それを守る人」とは、まず主イエス御自身です。弟子たちの恐れや心配をよそに、殺意がみなぎるエルサレムに向かってグングン進んでおられます。この女も群衆も、このまま栄光の王とってはいけないのでした。

II メシアのしるし

次の段落「人々はメシアを欲しがる」に行きますが、これは、ファリサイ派との議論の続きが残っている宿題でした。16節「イエスを試そうとして、天からのしるしを求める者がいた。」

群衆が「この人はダビデの子ではないだろうか」と言い始めたので、ファリサイ派の律法学者は何とか言わなくてはならない状況に追い込まれて、「あの男は悪霊の頭ベルゼブルの力で悪霊を追い出している」と言いました。しかし、もう一つ、天からのしるしを求めたのです。

それに対してイエス様は、「ここにソロモンにまさるものがある」、「ここにヨナにまさるものがある」と言われました。「まさるもの」pleion = greater を「まさる者がいる」と言われたのなら、イエスはヨナやソロモンよりまさる者で偉大であるということになります。「まさることがある」と言われたのなら、天からの「しるし」において、もういくつも神わざをなさいました。

しかし、新共同訳聖書は「まさるものがある」と訳しています。原文は「見よ、ソロモンより大なるもの、ここに」idou pleion Solomwnos wde となっていて、「いる」「ある」の言葉はありません。

「まさること」に関しては、「ヨナの宣教によってニネベの人々は悔い改めたが、あなたがたは悔い改めない。」「ソロモンの知恵を聞くために、南の女王は地の果てから来たが、あなたがたは来ない。」と、ニネベの人々やシェバの女王をファリサイ派と比べておられます。

「まさる者」に関しては、ニネベの人々やシェバの女王がファリサイ派よりまさっているとしたうえで、ニネベの人々やシェバの女王よりまさる者であればイエス様以外にありません。この場合は人物ですので「まさる者」となります。新共同訳聖書が「まさるもの」としたのは、「まさること」と「まさる者」を含んでいるというのであれば、両方兼ねて便利ではあります。

ただ、マタイ福音書はファリサイ派に言っておられることがはっきりしているのですが、ルカ福音書は「群衆の数がますますふえてきた」と言っているのです。ファリサイ派だけでなく群衆にも言っておられるように読めます。マタイの相手はおもにユダヤ人でしたが、ルカはパウロの相伴をして異邦人を相手にしています。すると、このメッセージは私たちにも語られていることになります。

「ここにソロモンにまさる者」、「ここにヨナにまさる者」とイエス様は言っておられるのですが、「ここに」つまり「私の所に」来ない者がいる。ファリサイ派は実際、体は来ているのだが、心は来ていない。群衆は、多くの人を癒すメシアのしるしを見て、「この人はダビデの子ではないだろうか」と言って、ますます増えて来たのですが、しるしや奇跡だけを見たがって来ている者も多くなりました。

教会に来ていながら、イエス様の所に来ていないということは、今日でもあり得るのです。未信者に限りません。教会から離れてしまった人にも限りません。ファリサイ派のように、長年、聖書を学んでいながら、イエスの所に来ていないということがあり得るとすると、牧師がいちばん律法主義になる可能性があります。聖書をよく学んでいながら、イエスをキリストと告白する信仰から離れた人は、実は、牧師や神学者に多いのです。「よこしまで神に背いた時代」は、今に至るまで続いています。

歴史的に、教会の分裂は、聖書解釈による信仰から必然的な宗教改革であることもありました。しかし、牧師や神父が神学をしている内に頭がおかしくなって、変な分裂もかなりありました。牧師招聘は、健全な信仰と神学の持ち主を探すことでもあります。

健全か不健全かを誰が判定するのでしょうか。長老、執事、牧師招聘委員会、会員総会での選挙。具体的にはこれらにより判別します。特に、長老と執事は、牧師と同じ改革派教会の信仰規準に誓約しています。使徒信条から始まる歴史的信条は包括詳細になりますが、神よりも人に受けようとして新しい説を言いたがる神学論文は、読まない方が健全さを保てると言えます。

III ヨナのしるし

なおもメシアのしるしを見せよと迫って来る律法学者ファリサイ派、なおもしるしだけ見たがる群衆。彼らに対して、主イエスは、実際には多くのしるしを見せておられたのに、あえて「ヨナのしるし」以外与えないと言われました。

人を救うメシアのわざを見て、なおも救い主のしるしを見せろと言うなら、「三日目に死人のうちよりよみがえり」というしるしを語ったら、それが最終的な回答となります。ヨナは三日三晩、大魚の腹の中にいたというしるしは、すなわち、死と復活のしるしです。すなわち、すべての奇跡やしるしは、これに通じてこそ意味があるのです。

これが、ヨナやソロモンにまさるものです。ニネベの人々は、ヨナが神の奇跡を行なわなくても、説教だけで悔い改めました。ヨナはむしろ、ニネベに行きたくなかったのです。イスラエルへの愛国心から、敵である大国アッシリアの都に悔い改めの宣教などしたくなかったのです。イヤイヤ行ったヨナの宣教でさえ、ニネベの人々は悔い改めた。

それに比べて見よ、ここにヨナにまさることがある。イエス様の宣教は、言葉だけでなく、奇跡的な神の癒しというしるし付きです。そのしるしは十字架の死と復活につながっていく、永遠の意味があります。シェバの女王は、商売敵のソロモン王に神の知恵を認めました。それに比べて見よ、ここにソロモンにまさることがある。イエスは、神の知恵そのものです。ソロモンに知恵を与えた神がここにおられるということが「ここにある」です。

ニネベの人たちは、ヨナの説教に神の警告を聞きました。シバの女王は、ソロモンの知恵に神の知恵を認めました。だから、ニネベの人々やシェバの女王でさえ、あなたがた律法学者とファリサイ人を裁くであろう。今ここにヨナの説教以上の説教が癒しのわざとともに示された。ソロモンの知恵以上の知恵があわれみのしるしとともに示された。これ以上何のしるしが必要でしょうか。

長い間クリスチャンである人が、前より悪くなることがあるか、というと、「ある」というのがきょうの聖書箇所です。耳触りのいいことを聞きたいが、耳触りの悪いことは、そのまま警告として聞かねばなりません。聖書からキリストの言葉を聞きながらキリストを受け入れなければ、その人の状態は、前よりもっと悪くなります。聖書をたくさん学びながら、「ヨナのしるし」が心になら、律法学者やファリサイ派のようになります。

聖書をよく知りながら十字架のキリストが心にないという魂が、サタンのいちばんのご馳走なのです。残念ながら、そういう神学者やクリスチャンは今でもたくさんいます。罪、十字架、復活、永遠の命などが心にない、キリストがいない魂の空き家です。ヨナの「三日三晩」とは、死んで葬られたキリストのことです。我らのために、罪の暗さを十分味わってくださったお方のことです。三日目に、我らの新しい命を持って甦られたお方のことです。聖書を学びながら、救い主キリストの「ヨナのしるし＝三日目に死人のうちより甦り」を魂に刻みましょう。